

第 12 回日本ジオパーク委員会 議事録

日時: 2011 年 9 月 5 日 (火) 13:00 ~ 17:00

場所: 経済産業省別館 11 階 1120 号会議室

出席者

委員長

尾池和夫 財団法人 国際高等研究所 所長

副委員長

町田 洋 日本第四紀学会 (東京都立大学 名誉教授)

委員 (五十音順)

伊藤和明 NPO 法人 防災情報機構 会長
菊地俊夫 日本地理学会 (首都大学東京 教授)
小泉武栄 東京学芸大学 教授
鹿野久男 財団法人 国立公園協会 研究員
高木秀雄 日本地質学会 (早稲田大学 教授)
佃 栄吉 産業技術総合研究所地質調査総合センター 代表
中川和之 日本地震学会 (時事通信社山形支局長)
中田節也 日本火山学会 (東京大学地震研究所 教授)
成田 賢 全国地質調査業協会連合会 会長

オブザーバー

外務省広報文化交流部国際文化協力室	門倉俊明
文部科学省国際統括官付ユネスコ第三係	揚田智恵美
文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官	桂 雄三
林野庁森林整備部研究・保全課環境保全専門官	櫻井 知
林野庁国有林野部経営企画課環境保護調整係長	柏 智久
経済産業省産業技術環境局知的基盤課課長補佐	高橋 潔
経済産業省産業技術環境局知的基盤課係長	太田克良
観光庁観光地域振興部観光資源課	池田博司
環境省自然環境局国立公園課課長補佐	藤井好太郎

事務局

産業技術総合研究所	利光誠一
産業技術総合研究所	加藤碩一
産業技術総合研究所	渡辺真人
産業技術総合研究所	濱崎聡志
産業技術総合研究所	吉川敏之
産業技術総合研究所	下川浩一
産業技術総合研究所	菅家亜希子

配付資料

- 資料 1 第 11 回日本ジオパーク委員会 議事録（案）
- 資料 2 室戸ジオパークの世界ジオパークネットワーク現地審査報告
- 資料 3 アジア太平洋ジオパークネットワーク会議（ハノイ）報告
- 資料 4-1 世界ジオパークネットワーク申請候補地域現地審査報告書
- 資料 4-2 日本ジオパーク申請地域現地審査報告書

13:00 開会

利光事務局長より開会宣言。

【委員長挨拶】

尾池委員長より、本日は認定地の決定に向けて審議を行う旨の挨拶がなされた。

【資料確認】

事務局より、配付資料1-4、及び委員のみ配付の佐渡地域パンフレットの確認がおこなわれた。

【第11回委員会議事録確認】（資料1）

承認。

事務局より、加藤委員から佃委員へ、及び瀬古委員から成田委員への交代の紹介の後、佃、成田、両新委員の挨拶があった。

【室戸ジオパークの世界ジオパークネットワーク現地審査報告】（資料2）

資料にもとづき、事務局から報告。

- ・昨年12月に申請、7月12-15日に現地審査が行われた。審査は順調に進み、高い評価をいただいた。市民の参加が進んでいるのは好印象で、ガイドのレベルが高い。ドルフィンセンターのイルカの取り扱いが懸念。結果は9月18日にノルウェーで開かれる第10回ヨーロッパジオパークネットワーク会議の閉幕セレモニーで発表される。中田委員と室戸関係者が出席予定。
- ・申請書に書かれている通りかどうか審査されているという印象。ジオパークというブランドを傷つけないか、ユネスコの名を汚さないかを一番気にしている。室戸は申請書以上との評価。
- ・うまく発表の手順を考えて欲しい。

【アジア太平洋ジオパークネットワーク会議（ハノイ）報告】（資料3）

渡辺から、資料に沿って報告。

- ・7月18日-20日にハノイで第2回アジア太平洋ジオパークネットワーク会議（APGN）が開催された。アジアから多くの参加があり、インドネシアも2地域審査中。ジオパークブランドを高める努力が強調された。その背景にはGGNとユネスコの関係強化の狙いがある模様。会議後、ベトナム初の世界ジオパークであるドンヴァンカルストジオパークと世界遺産のハロン湾を見学したが、地元住民の参画が不十分で、ジオパークとしては未整備な印象であった。

< 質疑応答 >

- ・ 現地の改善計画は？
- ・ ハノイの大学が熱心なものの、現地側の対応はまだ。
- ・ 大学が熱心な印象は韓国も同様だが、現地の組織を重視する日本とは違う印象を持った。

【GGN申請候補地域現地審査報告】（資料4-1）

報告書にもとづき、隠岐ジオパークの現地審査委員より報告。

- ・魅力的なジオサイトが豊富で、世界ジオパークとしてのポテンシャルは高いが、「大陸から島々へ」というキャッチフレーズの適切性には疑問もある。ジオサイト、生態系、文化サイト等を結びつけて、ユニークなストーリーをどう構築するかはこれからという印象。日本ジオパーク認定後、説明板の整備が不十分で、予算措置はなされているものの準備不足。隠岐自然館は整備されたミュージアムではあるが、ジオパークをうまく提示できておらず、インフォメーションセンターとしても不十分。ガイドは10年の蓄積もありレベルは高く、育成や教育活動が充実している。ただし、ガイドなしでジオパークを回るのは難しい。研究面は島根大学が全面的にバックアップしている。管理・運営面では二つの島という不利を克服して、3町1村と島根県の隠岐支庁及び国の機関の連携はしっかりできている。一般企業や観光業者との連携はまだ不十分。ジオツーリズム・ジオツアーが一般的に行われているが、ガイドの力によるところ大か。東日本への宣伝活動が足りない印象。ジオパークと観光の結び付け方が弱い。パンフレットや説明板の中国語・韓国語対応はこれからで、英語表記や英語のガイドも不十分。今後、外国人や帰国子女を活用して対応すること。土砂災害対策等の防災の準備は良くできている。

< 質疑応答 >

- ・ 東日本大震災被災地の女川町からのツアーも来ていた。前回の審査者からコメントは？
- ・ ガイドブックは絶版のため改訂中。今年の5月に訪問したが、外国人は非常勤職員が対応していた。看板は不足している。
- ・ 管理運営組織が隠岐支庁になったことでどれだけ変わったのか？日本海発生をステージ概念でうまく説明していたのに、看板やリーフレットが難解なのは残念。全体のジオパークの盛り上がりは今ひとつか？特にGGNに申請するのに、これから半年ほどだが間に合うのか？
- ・ 審査後に一気に予算を使うつもりらしい。看板の設置と保護とのジレンマもあり、悩んでいる印象。3町1村の結束と島根県支庁との連携は良い。日本ジオパーク認定後の変化が少ない。英語のガイドは実績が乏しい。ガイドツアーの経験・実績はあるが、個人の観光客などがガイドなしで回るのは難しい。前回から進んでいない。
- ・ 山陰と室戸は上り坂で、現地審査に間に合ったが、隠岐は悩んでいる印象。
- ・ 予算措置は？
- ・ 具体的な金額は分からないが、環境整備については隠岐支庁で予算措置している。看板の場所は確保されているが、案内図等の中身はこれから。
- ・ 普通は審査に向けて準備すると思うが、そうしなかったのはなぜか？
- ・ 看板を急ぐことはない。文句をつけられそうなものを作らなかったのは一つの見識。具体的な計画はあるのか？
- ・ 紙の見本はあったが、文字ばかりの原案であった。場所については関係機関と打ち合わせ中。既存の国立公園の看板は作り替える方針。ただし、全体のジオサイトが見えるものがない。意気込みは充実している。
- ・ 文字ばかりの原案の中身は、世界基準ではどうか？
- ・ 審査に合わせて間に合わせて作った感のあるものもあった。
- ・ 致命的なことに、まだ日本語しかない。
- ・ ニュージーランドから来ている女性が翻訳するらしい。
- ・ その女性は岩見銀山の説明板を担当した実績がある。
- ・ 看板のあり方は議論が必要。パンフレットの進行状況は？

- ・ 具体的なものはなかった。これから一気にとのこと。2次元コードなど、他の実例を勉強に、山陰と室戸の見学は行きたいとのこと。
- ・ なぜ今世界ジオパークに申請するのかわからない。本来ならば見学が先で申請は後のはず。申請前に準備しておくのが当前。
- ・ 資産は今までのGGN候補の中で一番良い。ただ、紹介の仕方が下手。島なので交流も乏しい。看板の設置等は環境省との十分な調整が必要らしいが、今後の協力は期待できそう。
- ・ 環境省も本省からの現地調査が委員の審査直後に来た。
- ・ 白山でも同じ悩みがあるが、ジオパークの利用者に地元が何をサービスしたいか、どう伝えたいかという考え方を明らかにすることが必要。設備整備計画はあっても、それをどう評価できるかということ。
- ・ ストーリーの組み立てが基本になる。「大陸から島々へ」ではわからない。これを見せたいというところがなく、各ジオサイトの価値に頼っている。説明者にもその意識が不足している。
- ・ 自然館は以前よりは整備されている。しかし、入らないと分からない。自然館の前にあるスペースでも分かるようにすべき。
- ・ ガイドツアーが非常に活発ということは、すごい財産となっているはずで、そのフィードバックはどうか？
- ・ ツアーもいくつかの種類があり、互いの連携はできているが、全体のストーリーに組み込まれるまでには至っていない。説明板の文案については、大学任せにするのではなく、地元関係者が議論する必要がある。
- ・ 船のツアーは？
- ・ 遊覧船のツアーは陸上からでは見えないものが見られるのですばらしい。これからジオツアーに取り入れる。シーカヤックによるツアーが盛んで、リピーターも多い。
- ・ 洞窟に入って行くツアー用の船を造って案内しているが、説明にジオの要素はまだ乏しい。
- ・ 自然館にビデオなどの用意はないのか？
- ・ まだない。自然館に入ればよいが、入館料を払って入らないと分からない。無料スペースにビデオなどは置くべきと進言してきた。
- ・ 手続きや工夫次第で良くできるはず。ガイドを前提にするようなツアー中心の島にするとうい。ガイドをつけるとリピーターになる。隠岐ならではの特徴を出すべき。
- ・ これまでのジオツアーの中で、小泉委員の団体のツアーが一番評判がよかったと聞いている。
- ・ 資産はあるが、今のままでは世界は難しい。指導が必要で、それをどう考えるか。全体のストーリー、隠岐の特徴を地元で議論して方針を決めてもらいたい。
- ・ ホームページの活用は？
- ・ 充実しているかどうかは別に、どういう人のニーズに合うように作ったらよいかを指導した。
- ・ ホームページでは行き方、位置関係等が分からない。日本列島の中で「地震と活断層のない島」という特徴があるのに、その説明はなかった。
- ・ 日本ジオパークネットワーク加盟後の予算執行による整備状況の把握は？
- ・ とくに確認してはいないが、予算がついたら無駄にならないように、これから一気に仕上げるという印象であった。

- ・このままだと落ちそうな気がする。必死になってやると一気に準備ができるかもしれない。今年見送ることによってがっかりするか、室戸のように巻き返しになるか、判断しかねる。
- ・今一気に動かしてしまうのがよいのか、財産を活かすために情報収集をもっと進めてからのほうが良いものができるのかの判断になる。
- ・これで通すと3ヶ月で申請書、半年で視察ということになるので、JGCが逐一指導しなくてはならなくなり、そうなると事務局が大変か？
- ・山陰や室戸に比べて、基本的なことで悩んでいる印象。どういうジオパークにしたいか、もう少し議論して考えていただいた方がよい。
- ・ストーリーを構築するために、地元を中心となる人がいるのかははっきりしない印象もある。
- ・阿蘇はめげてしまったが、それくらいの勢いしかなかった。いいものがあったら意欲が継続できるなら、1年くらい待たせてもよいのでは。
- ・今のままだとB級のジオパークができてしまうので、もったいない。既に観光客は来ているので、阿蘇のようになる可能性もある。
- ・GGN申請がゼロの年があると、ジオパークの関心や活動がシュリンクしないか心配だ。そのあたりのマイナス効果も気になる。
- ・JGCとしてはできるだけ支援はしたい。
- ・今回は通した方がよいと思う。隠岐の飛躍のステップにしてもらいたい。手続き的なことが大部分なので解決は可能だし、全体のストーリーについても、その指導や支援のブレイクを引き受けてもよい。
- ・室戸に比較して準備不足は否めないが、やる気は室戸以上。これを見送ったとき意気消沈するような気がする。一方で、通す場合はJGCとして落選の覚悟も必要である。
- ・小泉委員と事務局の負担が大きいが大丈夫か。
- ・JGCとして隠岐をGGNにしたいという意思を確認できればかまわない。JGCは仕上げるために協力する。
- ・必ずしも日本がGGNに毎年出せるものでもないし、固執しない方がよい。GGNに申請する地域には、是非国際的にも動きを見せてほしい。
- ・隠岐には具体的な活動を進めてほしい。委員と事務局の協力を要するが、隠岐のGGN申請を了承する。

【日本ジオパーク候補-現地審査報告】（資料4-2）

報告書にもとづき、現地審査委員より報告。

1) 茨城県北（8/22-23）

- ・茨城大学が中心になって動かしている。範囲は5市1町1村で、これに日立市が加わることになった。予算は大学中心から自治体負担に移りつつある。拠点はこれから整備する。袋田の滝や五浦海岸を始めとする有名な観光地を含む広大な地域で、干し芋や和紙などの特産品とジオの関係を含めて見所も多い。ジオサイトは網羅的。
- ・学生の参加の下でパンフレット・案内板が作られている。留学生による外国人向けのモニターツアーの実施やインタープリター養成など、大学のメリットを生かしている。ひたちなか海浜鉄道などジオ鉄の要素もある。

- ・ 課題は、全体のテーマ「新常陸風土記」が不明確なことや、ジオサイトの連携によるストーリーがまだないこと、内陸と海岸を結ぶ交通が不便なこと、拠点整備など。
- ・ 地元主導型への移行が課題。学校教育面での教育委員会の関わり方やガイドの工夫などが必要。書類評価よりは好印象。茨城大学は、あと 4 年は支援を継続できると言っているので、その中での地元への移行を期待する。
- ・ 大学がついているのでしっかりしている。全体としては良くできている。平磯海岸は東日本大震災での災害ジオサイトである。
- ・ 同行事務局員のコメントでは「部分的には洞爺湖有珠山より進んでいるところもある」とのこと。

< 質疑応答 >

- ・ 大学主体から地元への移行構想は？
- ・ 高萩と北茨城の市長は熱心。予算措置は 7 市町村でそれぞれやっていくとのことだが、その後の具体的な計画は見せてもらっていない。
- ・ どうやって事務局を大学から自治体へ移すのか？またその際、県はどのように関わるのか？
- ・ 具体的な計画は聞いていないが、県からもバックアップするとのこと。
- ・ これから作られる協議会に 3~4 年後には移行する見込みと聞いた。
- ・ 説明文については、大学が主導すると在学する学生の能力に依存しないか。地元住民を巻き込んで説明文を更新するなど、継続できる見通しは？
- ・ 卒業後の対応は具体的にはない。ガイドブックはこれから作る。現地での説明は学生でなく地元の方がやっており、インタープリターが育成されている。
- ・ 学生だけでなく、学長が替わると方針が変わることもある。
- ・ 7 市町村の取り組みの状況は？
- ・ 高萩と北茨城は市長も交流会に参加しており熱心だが、他自治体の個々の計画は聞けなかった。
- ・ 市町村はトップ次第の面もあり、結局は地元の協議会が担うことになる。ある程度準備ができていれば日本ジオパークとして認める。

2) 男鹿半島・大潟 (8/11-12)

- ・ 見所は、日本海ができた前後の地層、第四紀の火山と地殻変動、及び八郎潟など。地質・文化・人間の歴史が学べるということで、安田海岸の地層から古環境の変化がわかり、日本海中部地震の津波災害の語り部からも学べる。地域的な特徴は、男鹿と大潟で対照的であり、男鹿では地質中心だが人間の歴史や文化がうまく取り込まれておらず、大潟では人間と干拓の歴史が中心で、ジオ味に乏しい。ただし、お互いの足りない部分を補っていけば、より良いものができる。問題点として、看板は、整備されているものは良くできているが、場所は考慮すべきである。教育・研究活動では、大学の活動が冊子になっている。パンフレットは観光パンフしかない。災害教育は、キッチン火山学を含めいくつかやっている。津波については看板の整備が必要。管理組織は男鹿市と大潟村の 2 つの事務局を今後統一する必要がある。拠点は未整備だが、資料館を来年度から改修予定。ガイドも 2 組織あるので一本化する必要がある。ジオ商品は既に開発が進んでいる。外来客の誘導は不十分。全体的としてはジオパークとしての体をなしている。
- ・ 男鹿半島と大潟村は対照的な自然環境が含まれる、日本としても珍しい地域。加茂青砂は日本海中部地震の災害伝承として絶好の場所。八郎潟は人間の作った環境に新しい生

態系が形成されているという興味深い場所。地元住民へのジオパークの意識浸透は多少疑問符が付く。地震の空白域に伴う津波への備えが課題。

< 質疑応答 >

- ・ 日本全体の中で、男鹿半島と八郎潟の特徴を単純化して説明してもらいたい。
- ・ 地形発達史的には男鹿と大潟で密接に関係しているのに、それぞれで完結していた。ガイドが別組織なので弊害があるが、今後統一される予定。資料館も新しく一つできる。
- ・ 地元十分に浸透していないとのことだが、誰が活動の中心なのか？
- ・ NPO 法人と市の教育委員会が熱心に活動しており、その中の、NPO 法人理事長で秋田大学 OB の白石氏が中心である。
- ・ 日本海形成との関わりを絡めたストーリーは？
- ・ この地域のジオだけでなく、日本や世界全体の変動帯の中での位置付けを示して欲しいと注文をつけた。
- ・ 八郎潟干拓は国の事業だが、関係は？
- ・ 国や県を含め、関係者は協議会に入っている。
- ・ 人との関わりが深いのに、ジオと人の生活の説明が足りないのでは？
- ・ 地質に偏向している。人との関わりの中での説明がなかった。
- ・ 認定については、特に保留する理由はない。

3) 下仁田 (7/27-28)

- ・ 自治体は下仁田町のみでコンパクトなエリアである。見所は跡倉クリッペ、鉄鉱石鉱山、及び大地と人のつながり。跡倉クリッペは、地元では根無し山として町民の理解が浸透している。看板等良くできているが、現在の地形をつくるまでの経緯の説明が抜けている。段丘や滝、ネギとこんにゃく、下仁田焼き、町のそばの峡谷など素材はまだ豊富。教育活動については自然史館が中心。下仁田の地質に関する出版物は既にある。下仁田自然学校の活動も豊富。サポート体制もある。ガイドの活動はできているが説明が古すぎる。ネギとこんにゃくをジオに取り込んでほしい。国際対応はこれから。サイトごとのパンフレットに他の関連サイトの説明が載っており、よくできている。防災面は鉱山でのヘルメット着用やガイドなしでは入れない場所を設定するなど、それなりにしっかりしている。
- ・ クリッペの説明は「分からない」というところが面白い。自然学校で育ったガイドが自分の言葉で説明しているところが評価できる。「妙義詣」は日本初の観光ガイドブックというところも売りになる。看板には難しいものもあるが、自分で考えさせるように仕向けているものは評価できる。年 1 回、どうやって説明したかを競うようなクリッペ賞を作るよう進言した。ネギとこんにゃくとジオの関係は、これから解明される期待がある。

< 質疑応答 >

- ・ 「富国強兵を支えた史跡」とは？
- ・ 養蚕のこと。風穴で蚕の繭を保存したため。
- ・ ジオパークにふさわしいキーワードかどうかは疑問なので、殖産興業と言い換える。
- ・ 拠点施設としての自然史館は充実しているのか？
- ・ 小学校の廃校を利用しており、小さいながら博物館の役割をなしている。
- ・ そこへのアクセスが不便では。インフォメーションやゲートウェイの場所として、道の駅下仁田のほうが適切ではないか。

- ・実際に訪れたが十分機能する。地元でジオが浸透している。下仁田駅に説明板をつくる計画があり、鉄製品を運んだジオ鉄もある。
- ・妙義山登山は組み込まれるのか？
- ・頂上は危険だが、石門までは安全に行ける。
- ・日本ジオパークとして見送る理由はないということで結論。

4) 秩父 (8/2-3)

- ・全体的に各市町のまとまりが良く、意識が高い。前回の申請時とは全く違っている。管理運営も自治体だけでなく、様々な団体が参加。ストーリー性も向上しており、前回の審査からは大きく改善されている。課題としては、「地質学発祥の地」というストーリーの説明が不十分なことや、日本や世界における秩父の位置付けと現地へのアクセスの説明が不足していること。リピーターの確保に工夫が必要。秩父の札所めぐりと地質の関係を見せるユニークなジオツアーを実施。ジオガイドの養成並びにジオツアーも熱心に行われている。教育では小学生向けのイベントも充実している。拠点は長瀬の埼玉県立自然の博物館とおがの化石館のみで、やや不足しており、これから整備することのこと。防災・安全では長瀬の川下りの安全管理、ジオサイトの危険箇所対策、高齢者対策等の徹底が必要。当地域ではジオに対する意識が地元で根付いている。特に地元の女性によるジオへの取り組みが熱心に行われているのが印象的であった。
- ・バイクツーリングによるジオツアーも行われ、離れているサイトを貸自転車で回れるように計画中。「まるごとジオパーク」の合言葉が浸透している。
- ・ツアー参加者に植物など多くの専門家がいるという特徴がある。また、東京から近いメリットとして、1回のツアーに多数の参加者が集まる。
- ・アニメ愛好家などジオに関心がない人も集まって来ている。
- ・2年前のGGN 候補選定時の落選が、組織の団結力を生み、良い方向に作用した。
- ・2年前は自治体間の温度差とともに、「地質学発祥の地」というストーリーに実体がなく、ジオツアーもジオでなかった。今回は改善されているように見える。
- ・1300年の秩父盆地の歴史が学べるというのが1つのポイント。日本の地質学の歴史も学べるようになるとよい。

< 質疑応答 >

- ・総務省の補助金を有効に使ったらしいが、どういう経緯で申請し、また予算のメリットは？
- ・自治体毎に得意分野があるものと理解しており、あまり深い入りしないほうがよい。科研費などでジオパークを勝手に利用している例もあったが、ジオパークの利用価値が高まったものと理解している。
- ・中心になる団体はどこか？
- ・自然の博物館とおがの化石館が中心。
- ・展示の内容は改善すべき点もあるが、日本ジオパークとしては可としたい。

5) 白山手取川 (7/29-30)

- ・推進母体は白山市(中心市街地は旧松任市)。まとまりはかなり良く、担当者や案内者はジオの意識が高い。白山山頂から手取川河口までの水の旅がテーマ。ユニークでよいが、なぜ白山に水が豊かなのか、説明は不十分。百万貫岩や桑島化石壁など白山山麓のジオサイト現場に解説板や案内板がない。拠点施設の1つである砂防のPR館にはまだ

ジオの要素が足りない。ガイドブックやパンフレットも未整備で、地元でも当面の課題と認識している。山のガイドから湧水のガイドまでガイドは豊富で、ジオ味をつけるよう講習を実施している模様。教育活動については、化石発掘体験ツアーや出前授業を実施している。土砂崩れや洪水に対する防災意識は高い。現場の整備はこれからだが、意気込みだけは十分にある。

- ・ 協議会は昨年の 11 月にできたばかりなので準備不足。ストーリーはユニークで魅力がある。拠点も既存のものがあるので連携が課題。事務局は熱心に意識を高める活動を実施中である。お酒をからめたストーリーもある。学術サポーターとしての金沢大学との関わりはまだ発展途上。白山のハザードマップは準備中。
- ・ 地元の白山に対する思いを強く感じた。ガイドも非常に熱心であった。
- ・ 国交省や環境省の関係者も協議会のメンバーで、連携もうまくやっている。

< 質疑応答 >

- ・ 南アルプスの時にも議論したが、名前の問題がある。白山市だけで良いか。手取川河口には残り 2 自治体（能美市と川北町）がある。
- ・ 海との関係はどうなっているか？
- ・ 海の中まで続く扇状地なので、海もジオパークにすべきと指摘した。
- ・ 関係する自治体に声はかけたいという回答だった。
- ・ 手取川の流域としては小松市が入るはずなので、国交省の立場としては入ってほしいのでは？
- ・ 河川管理にあまり深入りすると大変。
- ・ 阿蘇の時もあったが、行政の問題は仕方がないということになった。なお、手取層の崩れやすい特徴が災害に大きく影響しているのに、その扱いが軽すぎる印象を受ける。
- ・ 現地審査の現場でもそのように感じた。
- ・ 百万貫岩の祭りは人と災害の結びつきの良い例になる。説明板がないのは残念。
- ・ 砂防と海岸浸食の関係など、防災と環境を考える上で面白い素材。
- ・ 冬のツーリズムは？
- ・ 白山山麓の白峰村にはスキー場がある。
- ・ 上流から下流へ下るときに地質と地形が変化するので、それも取り入れたほうがよい。
- ・ 大学との連携で、もっとストーリーを充実して欲しい。
- ・ ルーツ交流館とは？
- ・ 廃藩置県の後、最初に置かれた美川県に由来し、ルーツとしている。
- ・ 水の旅にちなんだ水の解説はあるのか？
- ・ 地域の産業が水で成り立っており、それに関連したいろいろな産物がある。年間の水量がどれだけというような具体的な説明は聞かなかったが、地元が水に生かされているという説明を行っている。
- ・ 手取川のダム建設時の発破が、西南日本地殻構造調査のさきがけとなったという歴史もある。
- ・ 手取川流域の一部地域が抜けていることはどうするか？
- ・ エリアに入っていない所でもガイドに勝手に説明してもらうのは良い。判断は地元任せたい。
- ・ 申請までの期間が短く、準備が間に合っていないという印象であった。
- ・ 地元が盛り上がっているところと今後の計画に期待したい。今のままでは十分ではないということは指摘する。

- ・ 日本ジオパークの場合、準備状況から判断することはこれまでもあった。
- ・ 4年後に再審査があることを伝える。自治体のエリアを宿題にするのは難しいと思うが。
- ・ 扇状地の中で、エリアに入っていない所も使えると言えばよい。

6) 磐梯山 (8/20-21)

- ・ 2町1村からなる。福島県立博物館と磐梯噴火記念館がサポート。ストーリーは単純明快で、1888年の山体崩壊と湖沼群が中心。表磐梯は寺社や野口英世記念館等の文化施設中心なので、猪苗代湖と盆地を含めるようコメントした。中心施設は、ビジターセンターと磐梯噴火記念館。猪苗代側のジオサイトを増やしてほしい。ジオグッズ等の開発は不十分。保全については、地元の意識も高く、問題ない。翁島岩なだれの大露頭とジオ鉄を結びつけることもできそう。ガイドは多いが、団体毎にバラバラなので、統一したジオの基準を作る必要がある。地元の教育・普及活動は進んでいる。管理・運営は認定後に充実させる予定とのこと。国際対応はまだこれから。看板は文字が多い。防災では銅沼ツアーがやや危険なので、対策が必要。
- ・ 3町村の首長の熱心さが印象的。博物館や噴火記念館も熱心。山岳ガイドやエコガイドなどのガイドも多いがジオ味が足りないので、福島大学等の指導・協力が必要。もともと観光地なので恵まれた環境にある。ただし、現状では裏磐梯には外国人が来ないとのこと。
- ・ 子供サマースクールでつきあいがある。自治体の温度差は解消の方向に向かっているが、事務局はまだ貧弱。看板は役所としてやや性急に作った印象。銅沼ツアーは最大の見所で、ガイド付きツアーとして好適。観光客は五色沼は見ても、その上の銅沼には目がいけない。
- ・ 銅沼のアクセスは工夫が必要。災害から観光地への変化も特徴。流れ山のブロックについている傷を示して解説するようなツアーにして欲しい。
- ・ 噴火記念館にはやや古い展示もある。ビジターセンターは予算がついて新しくなっている。両者の役割分担が課題。復興の話は噴火記念館にある。

< 質疑応答 >

- ・ 環境省のエコツーリズムのモデル事業地でもあった。組織としてジオツーリズムとの関係はどうなるか。
- ・ 実は同じ。ガイドに理解させる仕組みが大切。
- ・ ガイドによると、エコツーリズムにジオを乗せていきたいとのこと。
- ・ 地元でやっているエコツーリズム大学にジオツーリズム大学を乗せる形でやってもらいたい。
- ・ 1888年の後にも、また崩れている。そこまで含めるとさらに詳しいジオの話ができる。
- ・ エコツーリズムの学習をさらに深めるのがジオツーリズムという関係。エコの基本にはジオがあるという認識。
- ・ ジオパークの活動が始まって、ガイド同士の連携も生まれつつある。
- ・ 日本ジオパークとして認める方向で。今回は全地域を認めることになったが、各地域には具体的な注文をつける必要がある。

プレス発表資料の検討

- ・ プロジェクト資料を元に審議を行い、隠岐と日本ジオパーク6地域について、地域の特徴欄に追加・修正を行った。

その他

[第 5 回国際ユネスコジオパーク会議の準備状況]

- ・ 来年の世界ジオパーク会議に向けて、島原で準備中。会議の前後に巡検を計画中だが、準備が予定よりやや遅れている。EGN に 2nd Circular を持参する予定。GGN と APGN の会議が同時開催される予定。Geo fair を有料で行うことを提案。日本語のフォーラムは予定を変更して英語のセッションとして取り込めるようにしたい。島原と室戸のメンバーと中田委員とで EGN に出席し、当会議を宣伝したい。
- ・ 隠岐のメンバーにも是非 EGN に行ってもらいたい。

< 質疑応答 >

- ・ 再審査のやり方の議論は？
- ・ それは次回検討する。
- ・ 有珠の JGN 大会での報告を JGC へフィードバックするのか？
- ・ 大会の報告ではお祭りでもあるので、本音の話は困難かと思われる。
- ・ 分科会で議論される可能性もあるが、あまりリンクする必要はない。
- ・ EGN の審査結果を NHK の放送に乗せたい。日本時間では日曜日になるので好都合。
- ・ 事前に手はずしてもらいたい。
- ・ JGN と連携して準備したい。

17:00 閉会